

■ 第 1 回懇談会でのご意見について

◇ 第 1 回 多摩ニュータウンまちづくり方針の策定に係る懇談会 (H29.07.06 開催) における、各参加者からのご意見とその対応・考え方を以下のとおりまとめた。

● 人口・世帯について

➤ 高齢化対策について

✓ 【首都大学 饗庭教授】鹿島・松が谷地区は今後 10～15 年間での高齢化の進行が予測されるので、先行的に対策を考える必要がある。例えば、近隣センターの空き店舗に家賃補助を付与してコンビニ等を誘致できると良い。

⇒ 【対応】近隣センターの利活用は、既存の補助事業も活用しながら、J K K と相談しながら幅広に検討する。

《⇒方針 (素案) P27 ⑧》

✓ 【明星大学 西浦教授】現状で問題がない地区でも 2, 30 年後の高齢化の深刻化は明らか。学生のシェアハウス等、地域と地域を繋ぐソフトの仕組みも早めに考えていくべきである。

⇒ 【対応】地域の状況や住民の意向等を確認しながら、将来の高齢化を見越した様々な取組みを進める。

《⇒方針 (素案) P26 ④》

✓ 【首都大学 饗庭教授】地域の課題は、長期的な視点で考えるべき。民間マンションの維持管理等の現状把握や適切な指導ができると良い。

⇒ 【対応】今後、住民等と接する機会にはヒアリング等を行なっていく。

《⇒方針 (素案) P27⑩》※住宅政策課と今後調整。

➤ 大学生の定住化について

✓ 【首都大学 饗庭教授】大学生の卒業後の定住化は悩ましい。良好なストックのシェアハウス利用や、交流スペースを設ける等大学在学中にまちを好きになってもらうことが大切。

⇒ 【対応】大学生の定住化に向けて、まちに愛着をもっていただけるよう、地域活動の推進や、効果的なまちの魅力発信について検討する。

《⇒方針 (素案) P26 ③、P28 ⑮》

➤ 人口戦略について

✓ 【中央大学 和田教授】人口の戦略として、八王子で生まれ育った人に住み続けてもらう戦略も考えるべき。

⇒ 【対応】新たな転入者だけでなく、既存住民の住みやすさについても検討していく。

《⇒方針 (素案) P26 ④、⑤》

● 住宅について

➤ 公的住宅の改修・建替えについて

✓ 【UR 神崎部長】多摩ニュータウン八王子市域は昭和 51 年入居で、物件自体が老朽化したという認識はない。昭和 40 年代入居の団地を多く所有しており、ハード面での改善はそちらを優先せざるをえない状況。

⇒ 【対応】各事業者の建替えに関する計画に基づき建替えられるものと考えている。

《⇒方針（素案） P27 ⑩》

✓ 【J K K 本田部長】多摩ニュータウン八王子市域はURと同様、昭和 51 年入居。昭和 30～40 年代入居の住宅の建替えに順次取り組んでおり、多摩ニュータウン八王子市域の住宅は老朽化していないと考えている。

⇒ 【対応】各事業者の建替えに関する計画に基づき建替えられるものと考えている。

《⇒方針（素案） P27 ⑩》

● 近隣センターの利活用について

➤ 近隣センターの活性化について

✓ 【J K K 本田部長・東京都 宮城部長】鹿島・松が谷・南大沢等では近隣センターの空き店舗がある。商業環境が変化するなか、既存利用者の利便性にも注意しながら商業以外の利用も検討すべき。

⇒ 【対応】近隣センターの多様な利活用を検討していく。

《⇒方針（素案） P27 ⑧》

● 就業・ビジネスについて

➤ 職住近接について

✓ 【首都大学 饗庭教授】介護従事者への家賃補助等、地域を支える人への支援ができるとうい。

⇒ 【対応】居住者への補助は、賃貸住宅所有者のUR・J K Kに相談しながら、実現性や枠組み、方法等を整理していく。

《⇒方針（素案） P26 ①、④》

✓ 【中央大学 和田教授】職住近接の戦略でいくのか、住機能に重点を置くのか。

⇒ 【対応】企業立地の促進を図りながら、既存ストックを活かして、住民はもちろん転入者に住みよい住環境を維持していく。

《⇒方針（素案） P26 ②、④、P28 ⑭》

➤ 大学との連携について

✓ 【J K K 本田部長】大学の立地はこの地域の大きな特色。大学と連携していきたい。

✓ 【東京都 宮城部長】留学生の居住は期待しているが、大学間の連携についても議論すべき。

⇒ 【対応】まちづくりにあたっては、周辺大学と連携していく必要があると捉えている。

《⇒方針（素案） P28 ⑯》

- 公共施設の利活用

- 小学校等の余裕スペースの利活用について

- ✓ 【中央大学 和田教授】 高齢化の対策として、小学校の余裕スペース活用が考えられる。介護関連業は、高齢者だけでなく、若い世代の雇用創出にもつながるメリットがある。

- ⇒ 【対応】 学校の余裕スペースは、地域の状況に合わせてどのような活用が望ましいか、今後整理していく。今後新しいビジネスの創出等も図りながら、雇用の創出を目指していく。

《⇒方針（素案） P27 ⑦、P28 ⑭》

- ワークショップについて

- ワークショップの進め方について

- ✓ 【首都大学 饗庭教授】 ワークショップで地域課題をプロジェクトの種として提示して、具体的に何ができるか話し合ってもらおうと良い。色々な大学の学生を集めるのも面白い。良いアイデアは、事業化を目指すことが重要。

- ⇒ 【対応】 市としては、学校の余裕スペースの活用等、アイデアがあれば収集したい。近隣センターの活用については、J K Kと調整する。

《⇒方針（素案） P27 ⑦、⑧》

- ✓ 【中央大学 和田教授】 ゼミを活用して、八王子市の多摩ニュータウンで地域振興戦略を考えてもらいプレゼンしてもらってもできる。準備等もあるので、スケジュール感を知りたい。

- ⇒ 【対応】 ワークショップの進め方等と合わせて、コーディネータである饗庭先生とも相談しながら、スケジュール等を整理し、調整する。

《⇒ワークショップについて調整中（開催概要は、資料2のとおり）》

- その他

- まちづくりの視点について

- ✓ 【東京都 宮城部長】 テーマの幅が広すぎる。地域も、各地域に重点を置くのか、全体に重点を置くのかで検討すべきスケールが異なる。大きなスケールの話で見れば、リニアや圏央道等まちを変えるキーファクターの活用も検討すべき。高齢化や近隣センターの課題はソフト的な取組がメイン。

- ✓ 【東京都 宮城部長】 ニュータウンだけでなく八王子市全域にまで影響を及ぼすことを考慮したまちづくりが必要。

- ✓ 【明星大学 西浦教授】 広域の視点での検討も必要。

- ⇒ 【対応】 都市づくりビジョン八王子（第二次八王子市都市計画マスタープラン）での東部地域の将来像「みどり豊かな風景と、そこで育まれた歴史に触れ合える 都市の自立を先導する交流と活力のあるまち」に沿って、東部地域に含まれる多摩ニュータウンのまちづくり方針を検討していく。

また、東京都が今年度策定予定の「多摩ニュータウン地域再生ガイドライン」に基づいて広域的な視点の記載についても検討する。

《⇒方針（素案） P3「1-3 対象区域」に都市計画マスタープランのこと記載、今後東京都のガイドライン策定に合わせて広域的視点について記載》

- ✓ 【首都大学 饗庭教授】多摩ニュータウン区域北側の区域外の住民も多摩ニュータウン住民と同じ生活圏。
- ✓ 【首都大学 饗庭教授】土地区画整理区域のアパートオーナー等は、面白い事業があれば個人の判断で取り組んでもらえる。
- ⇒ 【対応】地域の町会等と接触していく中で、取組みについて検討していく。
《⇒地域住民に説明等を行なう際に取り組みについて説明している》

- ✓ 【中央大学 和田教授】高尾山等、緑を中心とした観光資源が近いことはステータスである。
- ⇒ 【対応】地域のブランド力の向上について、今後検討していく。
《⇒方針（素案） P28 ⑮》